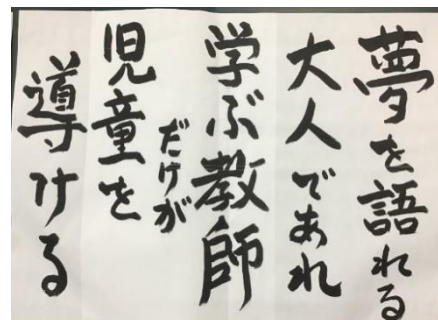


大分教育事務所訪問 13

臼杵市立下北小学校から学ぶ

学校の教育目標「郷土を愛し、仲間と共に、学び合い、高め合い、認め合う児童」を育成するために、目指す子ども像を「仲間と共に、考える子、がんばる子、おもいやりのある子」とし、その言葉から合い言葉を「えがお」（大分教育事務所と同じですね）として、特に人の話を聴く力を育成することに取り組んでいます。



学校経営から学ぶ

校長先生のリーダーシップのもと、172人の児童を21人全職員が担任という姿勢で、Q=U分析や特別支援教育の視点を取り入れた学級集団づくり等に取り組まれた成果が、子どもの変容という形で確実に現れてきたようです。特に、各主要主任には3部会の育成部を任せると共に、常に俯瞰的に学校を見るように指導するなど、主任の育成や意識改革は素晴らしいと思いました。

今後は、それぞれの実践において、子ども達にどのような資質・能力をつけるかを意識し、さらにその力がついたかを検証すること（定数化：数値で表せるもの、定量化：数値では評価できないことは児童観、価値観の共有、具体的な子どもの姿のイメージ）をとおして、より成長を実感することができると思いました。



NO.81 2021年6月 臼杵市立下北小学校

高め合う

頑張っている自分がいる。  
集中している友達がいる。  
だから、共に高め合う。

授業から学ぶ

掲示物を廊下に掲示することで自己存在感を感じさせたり、人間関係プログラム等の成果からでしょう、授業中に友達の良さを認め合うような場面を多く見ることができました。特に3年生の書写では、友達の作品に対して良いところを発見したり、拍手をする等、肯定的な言葉や笑顔があふれていました。

今後は、授業中に自分の考えを主張する際は、起立して公の言葉で言う、また、聴く人は意見を最後まで聞き、共感的に聞く、うなずく等のルールを学級で決めることで、より人の話を聴く力がつくと思いました。



NO.80 2021年6月 臼杵市立下北小学校

学び合う

必死に考えてもわからないときもある。でも、学び合える仲間がいるから安心だ。



NO.83 2021年6月 臼杵市立下北小学校

調和する

いろいろな音がある。それぞれの音が調和すると素晴らしいハーモニーが生まれる。



NO.82 2021年6月 臼杵市立下北小学校

認め合う

「すごいね」「頑張ったね」拍手にはそんな思いが込められている。だから拍手のある教室はあたたかい。